女木島

めぎじま

Information

【基本情報】
▶面積／2.62㎢(令和2年10月1日現在)
▶本土からの距離／高松港から5.5km
▶人口／125人(令和2年10月1日現在)
▶主な産業／とうもろこし、にんにく、みかん、落花生

【島内の移動】
徒歩、レンタサイクル、洞窟行きバス

【問い合わせ先】
高松市 政策課
087-839-2143



高松港からフェリーで20分。桃太郎伝説の鬼ヶ島。

島内に謎の洞窟が発見されたことから、「鬼ヶ島」とよばれている女木島。鬼が棲んでいたと伝えられる大洞窟や、鬼の灯台、鬼の資料館など、いろいろな場所で鬼に会うことができます。夏は海水浴で賑わいます。



鬼ヶ島大洞窟

鷲ヶ峰の中腹にある大洞窟。夏でもひんやり薄暗い洞窟の中は、まるで迷路のようで、「鬼大将の部屋」「鬼の宴の間」などがある。



おにの館

港にある待合所。洞窟行きバスのチケットやレンタサイクル、お土産はここで。鬼の資料館もあり。館内には島オリジナルの鬼グッズも。



世界最小のメロン

女木島にしか自生していない原生種メロン。鬼ヶ島大洞窟の下、「円山古墳」近くの畑などで、10月頃見ることができる。苦みがあり食用には向いていない。



オーテ



港付近の集落をぐるりと囲むように立つ石垣は、冬の強風から家を守るために築かれたもの。高さ4mを超えるものもある。

食事

UMIYADO鬼旬(きしゅん)①
高松市女木町453　087-873-0880
11:30~14:00 ※夜は応相談
休 水曜日、海開き期間中は海の家としても営業
※要予約

鬼ヶ島倶楽部②
高松市女木町424　090-5279-7960
9:00~17:00(月曜は9:00~16:00)
※夜は応相談
休 火、水、木(祝日を除く)

宿泊

瀬戸内ステイ 女木島ビーチアパート③
高松市女木町453-1　087-821-1810　9:00~19:00

女木島ゲストハウス&カフェMegino④
高松市女木町453-1-2
website http://megijima-megino.com

その他、海の家数軒

大島

おおしま

Information

【基本情報】
▶面積／0.62㎢(令和2年10月1日現在)
▶本土からの距離／高松港から8km
▶人口／53人(令和2年10月1日現在)
▶主な産業／ー

【島内の移動】徒歩

【問い合わせ先】
高松市 政策課
087-839-2143
大島青松園 福祉室
087-871-3131



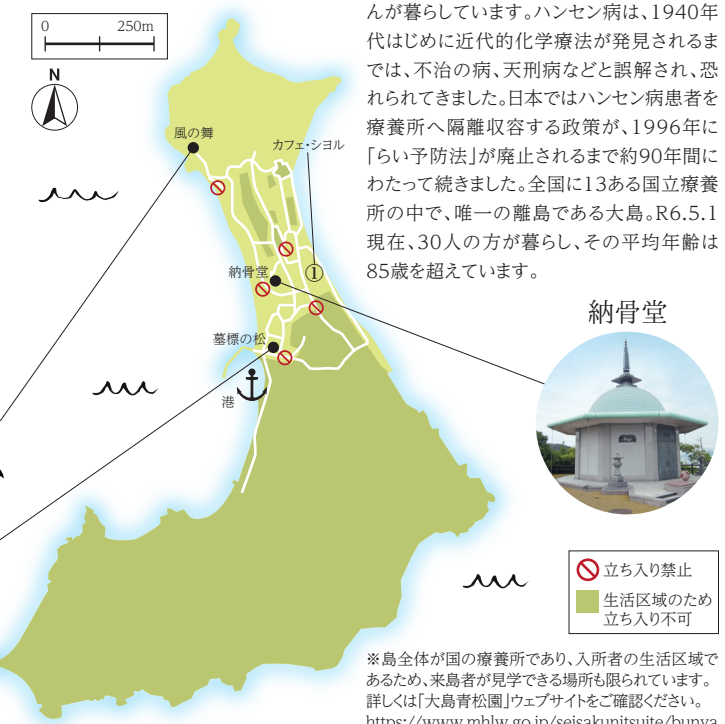
国立療養所大島青松園のある静かで美しい島。

高松港の北東約8kmに浮かぶ小さな島。もともとは2つの島だったものが砂洲でつながり、ひとつの島になりました。源平合戦の「屋島の戦い」で敗れた平家方の勇者を葬ったところに植えたと伝えられる「墓標の松」に覆われた松林が残っています。大島は島のほとんどがハンセン病療養施設「国立療養所大島青松園」です。ハンセン病の治療を終え、回復した皆さんが暮らしています。ハンセン病は、1940年代はじめに近代的化学療法が発見されるまでは、不治の病、天刑病などと誤解され、恐れられてきました。日本ではハンセン病患者を療養所へ隔離収容する政策が、1996年に「らい予防法」が廃止されるまで約90年間にわたって続きました。全国に13ある国立療養所の中で、唯一の離島である大島。R6.5.1現在、30人の方が暮らし、その平均年齢は85歳を超えています。



風の舞

1992年(平成4年)に約1,000人のボランティアの協力でつくられたモニュメント。ここに眠る魂が風に乗って、自由に解き放たれるようにという願いが込められている。



納骨堂

※島全体が国の療養所であり、入所者の生活区域であるため、来島者が見学できる場所も限られています。詳しくは「大島青松園」ウェブサイトをご確認ください。
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/hansen/osima/index.html



墓標の松

船を降りて島に上陸するとまもなく、美しい松林が見えてくる。源平合戦の「屋島の戦い」で敗れた平家の武将の亡骸や遺品を埋葬した際、墓標として植えられたといわれている。

食事

カフェ・シヨル①

瀬戸内国際芸術祭のアート作品。「大島を味わう」をテーマに、大島で採れた野菜や果物を使ったお菓子やドリンクを、大島の土を使った器で提供。入居者と来場者の交流の場となっている。オープンの日については、瀬戸内国際芸術祭サイトで確認を。
高松市庵治町6034-1
休 瀬戸内国際芸術祭のウェブサイト(https://setouchi-artfest.jp/)をご確認ください。



やさしい美術プロジェクト「(つながりの家)カフェ・シヨル」
Photo:Shintaro Miyawaki